

若き、附中

熊本大学教育学部附属中学校

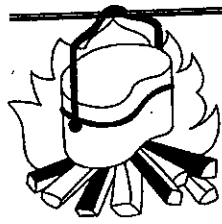
学校だより
平成30年6月6日
第5号
《文責：高木》

自己への挑戦・他への貢献

5月24日(月)、一年生全員が、天草青年の家へ2泊3日の集団宿泊訓練へと出発しようとしている時のことでした。

一年生全員にむけて、一年主任の坂田先生が、「記憶は消えるが、記録は残る」といいます。この2泊3日の訓練中、心に残ることがあれば、必ずメモをとって残しておきましょう」という話をされました。

私自身、いつの頃からか、いになどと思った言葉をメモするつせがっついていて、この坂田先生の言葉も、当然メモしていました。ただ、実は、坂田先生



の言葉をメモするその前に、もう一つメモした言葉がありました。それは、大山教頭先生がいわれた言葉です。

「この2泊3日の集団宿泊訓練に対して、生徒のみならず、

がんばって欲しいことは、簡単にいうことは、つです。そのつは、「自己への挑戦」と他への貢献」です。」と話されたのです。

「自己への挑戦」というのは、何も、何かの記録に挑戦するとか、何かの冒険をするというのとはなく、自分が平日頃、なかなかできない事、例えば、立ち止まって大きな夢を思いさつて

するとか、積極的に発表するとか、どういったことができようか、うに一步み出すことか、立派な挑戦だと話さ

フづけられました。

考えてみれば、大山教頭先生がいわれた「自己への挑戦・他への貢献」というキーワードは、一年生の集団宿泊訓練だけではない、すべての学年の日常にあてはまる言葉だと思つたのです。

生徒のみならず、今一度、自分の生活をふりかえってみましょう。今日一日の中で「自己への挑戦・他への貢献」ができたでしょうか。

日々、みなさんが、「自己への挑戦・他への貢献」をくり返しながら、成長していくことを期待しています。



集団宿泊から変わった自分

一年一組 池田

僕は2泊3日の集団宿泊を通して、附中の仲間と共に体験し、二つの事を学びました。

一つ目は、家族への感謝の気持ちです。一日目の野外炊飯で事前に準備していたにもかかわらず、実際に準備してみると計画通りに活動が終わらないといった事態になってしまいました。その原因は、マキに火をつけるのに時間がかかったことでした。

こうやって、マッチと新聞紙でマキに火をつけたことは、今まであまり経験がありませんでした。この経験から、普段、親に頼ることが多かった自分に気づき、改めて親への感謝の気持ちと、自分のことは自分で行うという意識を身につけることが出来ました。

二つ目は、思いを一つにして協力し合うことの大切さです。一人だけの考えや力だけでは進まない。ペーロニ船は、みんな一

斉に同じタイミングでこがないと、前へ速く進まず、一人でもずれると減速してしまいます。だから、仲間を信じ、協力することが大切だと強く感じる事ができました。ゴール出来た時の達成感は一筋に汗を流し、喜びの気持ちを共有できた瞬間でした。

まだまだ自分の課題は、山積みですが、意識の変化の一つとして、まずは立ち止まって自分からありさつをするという細かなことから一つ一つ積み上げ、総代としてクラスをまとめる、自分自身の成長へとつなげていきたいと思っています。

※ 生徒の皆さんや保護者の皆様のためにどのように映っているかは不明ですが、熊大附小の校長・副校長、熊大附中の校長・副校長の4人は、同じ年の生まれです。ちなみに、全員こうさぎ年です。